

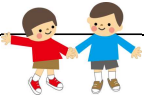
11月21日(水)人権教育の公開授業研究会がありました



授業研究会の際は、指導案（どのようなねらいでどんな教材を使ってどんな流れで授業をするのかを書いた計画）を校外の協力者・司会者と一緒に、事前に研修をして当日に臨みます。公開授業をしない学級でも、学級の実態に合わせながら、同様の授業を進めます。先生たちはこんな思



いで授業をしているということ、保護者の皆さんにも是非伝えたいと思い、指導案の一節（一部伝わりやすいように言葉をかえているところがあります。）を紹介します。同じ学年は、全学級同じ学習をしています。是非、どんな勉強をしているのか、子どもさんとお話してみてください。

1年 かにむらのできごと(さるとかに)	2年 うちのひとのしごと
子ども同士の関わりの様子を見てみると、仲良く遊んでいる姿が見られる一方で自分にとっては何気ない行動でも、相手を傷つけたり苦しめたりしていることもある。そして、気付いていないことも多い。だから・・・ 	初めてのクラス替えで新しい友達づくりに一歩踏み出せない子どもも見られたが、今では子ども同士の関わりも増えてきている、しかし自分の気持ちをうまく伝えることが苦手だったり友達の見方を決めつけてしまったりする子どももいる。だから・・・ 
3年 ほんとうのともだち	4年 伝えたいこと
人権学習の時だけ、子どもたちが真剣に身の回りのことを考えるのではなく、日頃からおかしいことに気づいていけるようにしたい。子どもたちが人権学習を通して自分のことに気づき、おかしいことにも気づき、それを伝えていける集団をつくっていききたい。無関心や黙ってみているだけということが、差別を許し、差別をしている側にたつということにも気づかせたい。 	自分のことをまず見つめる、その自分を周りの友達がどう受け止めていくのか、そこが子どもたち同士がつながるチャンスになる。差別につながる感じ方、考え、発言や行動は誰でもしてしまう。本当に伝えたいこと、本当の思いとは、ねじれたところで差別へとつながっていく。だからこそ、差別をなくすためにつながる仲間となっていくには、自分のことを伝え合うことが欠かせないと思う。 
5年 村ずもう	6年 なごごて腹んたつ
「子どもたちの生活を見てみると、人によって見方や態度を変えていることや、無意識に相手を下に見ていることがあるのではないか。」と考えるようになった。～中略～題材を通して部落差別の不合理さに気づき「無くしていこうと行動すること」「人を大切にすること」は学級の課題と大きく重なることがある。 	きつい思いをしている友達に気づき、自分のことや、何か自分にできることはなかったのかについて考え、支えることができる子どもを育てたい。～中略～部落差別をはじめあらゆる差別をなくす大津町児童生徒集会でも発表し「行動に移すことの大切さ」について考えてきた。 

子どもたちは、年間を通していじめや部落差別の問題、ハンセン病や水俣病の患者さんまたはそのご家族に対する差別、障がい者差別などについて、発達段階に応じて学習をしています。いじめも部落差別も様々な差別も同じ構造で、全てに共通するのは、「いじめや差別は、いじめられる側や差別される側の問題ではなく、いじめられる側・差別する側の問題だ」ということです。いじめや差別をすることはもちろん、見て見ぬふりをすることも差別する側であるということも学んでいます。「あなたはどの立場ですか？差別（いじめる）する立場？一緒になっていじめる立場？見て見ぬ振りをする立場？それはおかしいと声を上げる立場？助ける立場？」立場はその時その時で変わることも多いのです。保護者の皆さん、あなたはどの立場ですか？あなたのお子さん

美咲野小だより

11月

NO. 11
H 3 0 . 1 1 . 2 7
大津町立
美咲野小学校
文責：草場ルミ子

花壇の整備

花の植え替えの時期になりました。掃除の時間を中心に、南側の花壇や西門フェンス沿いの花壇、北側花壇などの花を抜きました。プランターの土もひっくり返して準備中。南側花壇は、3・4年理科専科の池田先生が、ミニ耕運機で石灰や肥料を入れて耕してくれました。（池田先生は図書室前などのゴーヤカーテンもせつせと育ててくれたのですよ。夏場、図書室の窓から見えるグリーンはとてもステキでした。）花苗もたくさん届いています。23日には、シンボルツリー周りの大きな花壇に花いっぱいボランティアさんが花植えをしてくれました。3月、6年生が卒業する頃には、きつとたくさんの花が咲き始めます。新1年生もきれいな花々で迎えられそうです。春が、とっても楽しみです。

